

市誌編さんだより Vol.8

専門家の調査だけでなく、市民の調査協力員や大学生・中高生と聞き書き調査・執筆を行っています。奇数月の1日号にて編さん状況を紹介しています。

～『高浜町誌 第一巻』『高浜市誌 第二巻』の編さんを語る～

- 昭和41年（1966）、先史・古代から近世(江戸時代)までの歴史資料がまとめられた『高浜町誌 第一巻』が刊行されました。そして市制施行後の昭和51年（1976）には、近代（明治時代）から昭和50年ごろまでの市の移り変わりや、生活と風俗、寺社などのデータが記録された『高浜市誌 第二巻』が完成。これら2冊を合わせると、高浜市の先史・古代から現代について通史的に知ることができるようになりました。
- かつて編さんの中心にいたのは、高浜市誌編さん委員長も務めた、故・杉浦茂治さんでした。杉浦さんはもともと学校の先生で、高浜の歴史や文化に興味を持ち、市内のいたるところで資料収集や聞き取りをしました。杉浦さんを知る方や、現在市誌編さんに関わる方はこのように話します。



茂治さんが編さんをしていたころ、調査で市内を移動するのは徒歩か自転車でした。夏の暑さや冬の寒さをものともせず、市の歴史を未来に残すために奔走した先生の情熱には頭が下がる想いです。『市誌』は私たちが生きてきた証を後世に伝えるためにとても大切なものです。みなさんは「高浜のスズメは黒い」といわれたほど、煙の立ちのぼる煙突が立ち並んでいた風景をご存知でしょうか？今回新たに編さんしている市誌は、市の姿が大きく変化したこの40年間ほどの記録が中心ということで、その内容にとっても期待しています。

平成28年度から新たに始まった市誌編さんでは、過去に発刊された町誌・市誌や、茂治さんが残してくれた膨大な資料を読み込むことも調査の一部です。なかでも調査ノートには、過去の市誌には載せきれなかったことが数多く記録されており、現在行っている調査に非常に役立っています。改めて、資料をきちんと保管することの大切さを実感しています。歴史的に価値のある資料は、意外と身近にあったりします。「こんなものいらない」とすぐに捨ててしまうのではなく、一度じっくり見てみることで、新たな発見につながるかもしれません。



- かつて杉浦さんが、後世に歴史を伝えるため、ノートを片手に市内を駆け回ったその精神をしっかりと受け継ぎながら、今を生きる私たちも、未来へ歴史のバトンを受け渡す使命を胸に編さんを行っています。



郷土資料館に保管されていた調査ノート▶

【協力をお願いします】

- ◇自宅などに高浜市に関する資料(特に明治時代～昭和)がありましたら、ぜひ情報を寄せてください。
- ◇資料整理、調査、聞き取りなど、「市誌編さん事業に興味がある!」「参加したい!」という方は連絡してください
- ◇市誌編さん事業に関する詳しい内容は、市公式ホームページの「文化スポーツグループ」のページで紹介しています!